



白石哉著
知人良物語

全

和装本

□ 13

846



門行書
籍 846
巻

[Faint handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side]

市島油吉

[Red seal]

明治二十七年一月二十日

旧 15

248

中野 西村



ちくちく物落

漢洛和洛お雑言をてはれとれかてはれとれ
 ありやゆゑらちくちくとふ名付あうあう

ら江初のち中を中身月を暫自かちち高るを
 のち急減平を音よみあかちけり熱一生の過と
 かりさるるふえきるいああありけりしとさるるいあああり
 もさるるふあれ才小わうてこいさるるいあああり
 おわうあ人のあ章けれの是のうたああありけりしとさるるいあああり
 又その極とていとのれとああありけりしとさるるいあああり
 ちああありけりしとさるるいああありけりしとさるるいあああり
 して余あうあうとさるるいああありけりしとさるるいあああり

あるをさとさし敬く様ふんか、
いふも子おふこれゆるらん、
のりく河ふと好くたすめありとそれと捨て人ふはひ
顔ひあり孔子曰終日不食終夜不寝ん、
ぬふも又曰我非聖而智者之信も好古故も来も者
こととそれへ同て言も来も信もと好むはむを重む事
れどもおれとち下の道もふのありあつてし
さふも後にもさふひもさふふさふんさふめがふ
かくそと徳のありかうも然れも小報自の不幸も
良友のありさふのあり皆も学れ人さふの借は下
ふれ流のふ正徳は富徳のあり学もはむとふらるるか

とくめきりなり、
あしし癖とふはなやとてちてふ才とふも、
さふもこの是のありさふのあり我れ讀道は、
さうしつと時ふとさふひもさふ解もさふひも、
はつと解もかんのありとさふと解もさふ、
あやしのひもさふさふさふ、
恥痛く憂ひして眉もさふとめたり、
いふふとつらありと口も利もさふと巧も、
おのひら乃活れもさふありされ、
せとせもさふとわかくもさふあり、
まじくさふとあつてさふ、

新道と云ふは、若く世の多くの人と云ふは、
方便況と云ふは、
新道といふは、

一字も後此をよめり

佛の心は、
志怒も除き、
形と云ふは、
れり

心かくて、
大恵の心、
て我々の、
て生滅の、
かて初め、
一と念を、
南泉の、
戴お通、
と思ひ、
こそ

神

道はふしきありしわしりまのむけに人から一家の道
人たるも穢あまのすまけくちるありてまふく
ぬわのぬ君小位して氏と治るれんもるありて官
とまふはひいてすともるかひ貴爵れれ刑禁の
みても危かるとかん物れれ仙の寂滅の返事平らね
國の家の何とせんとせよれれ於のち儒教のあり
かとせしゆくゆれれもさうしてち後小業のちれ
ふうと我と身や致とをりてれれありと現と説
ふとせしん仁とさして國と身ありて美と悟りて
外と教ありて動靜れれさうして性其初とらんふと
未のえさう嗚呼教とありぬるは道とありてあり

安きよありとありはありまわのる小業の質極して深
ふとせしんくも致と處ふちるもさうしてはれとせしん
りかいたえとありまをれとまをれとありてあり
て後世とせしんれれいふありてありてあり

わら業の人々ありてあり人とも人とせしんありてあり
は心ありてありありありありありありありありありあり
そふれ我獨るとして一掃ありありありありありありあり
てありありありありありありありありありありありあり
めんありありありありありありありありありありありあり
とありありありありありありありありありありありあり
嗚呼とありありありありありありありありありありありあり

矯とて下の言を述べてコトハ愚いものにして思わぬ所をいひし事をも
不慮にた人をして自らも知らざることありといひし事をも
也是端はさうして我の如く一禱とて言て人の心を動かす事
のさかたつことなるを可及して師の言の如くは
て惜れといひ我もさういふ事とありてさういふ
事ハ言ふ所とて言ふことハ空しく言ふ事務かと
考せしむれば人少くもさういふ事とて思て物と
我の如く行て言ふ事故に之種の文王迄ふれさる及
よく是一げれとて然る禱自ら言ふ既ち惜せ
後とて言ふ事とて又いと別ひて言ふ惜れといひ
るもの別け家内の一物旬月中ふらさうとて人と我の

請とてせり我世に易の良の卦と見えたる朱程の説あり
かた程子の多欲の地とよぶ事といひ朱子の多言の地とよ
ぶ事家といひ多欲の地の禱も又其言とていふ事
地にかれりて知る事ありけり竟の仁壽の孝れといひ
王物に自らたれり強いて竟の氏の艱苦と苦節
甚るる事多言の事といふ事父母とて言ひて早天母節位
せり物に多言に止る事といふ事言ふ事とて言ふ事
の一事も多言といふ事ある事ありけり言の卦其象とていふ
事言ふ事多言に何事とて言ふ事良の卦其象とていふ
山ありて言ふ事遷りて言ふ事言ふ事とて言ふ事
何事とて言ふ事又言ふ事言ふ事言ふ事言ふ事

九天と云うは一唱は口と異て八風と記せん。うづこ一休の
 眼はあまの物の影とて其心軀殼の半と脱つて故に
 常小元表に在る人鬼と云ふ物中も其家の半
 道行人の本陰ありて是を伸ぶることありなり。

世を常く人と感ずるは又深し。所を正しめたるは正と
 ありあはれや曰吾るは一人ありてあはれあはれ田を徳り
 父母と美良の福とて其子と保つ。天下の生業ありしる
 に仁ありあはれ。一和尙のよき。善く人より
 了神とひられあり。先者達の後世と昂ひ現世と祈り
 寺と家一ひありて。あらはれ。是も又けれ。我とて

いとふもの。いとふことと。世とふせ。せせは。其の行とて
 此とらやせり。流とて。あはれ。寺あり。人ほら。ひ
 さけて。風を。衣と。はら。寺と。民の。力。ある。物
 こ。あ。れ。の。報。勤。若。と。人。少。我。独。や。と。ふ。と
 と。あ。ま。の。又。の。一。唱。一。唱。ハ。修。ハ。虚。心。の。支。と。ら。の。の。

かる。と。云。行。の。は。時。の。道。れ。る。物。の。性。り。て。人。其。心。成
 なる。あり。あ。る。感。む。ハ。あ。と。茶。豆。別。の。情。あり。と。也。考。考
 天地と云ふは。又。と。て。さ。ち。中。と。え。一。あ。せ。り。是。を。知。れ。り
 一。と。ん。や。と。ふ。の。と。一。休。の。行。を。常。く。人。と。感。ず。ら。て。民
 皆。空。裏。の。ひ。あ。を。感。ず。る。業。七。ひ。あ。ん。は。弊。由。て

すむるすし位とのと麻加院王の太子ありし位とす
ととのりてと命をなれあうとん位とすも倚るあ
後六のりと物位又とる(一)すお何く山入と三年
里あゆそ平平年の多と家あ年のりふと書せ(一)衰
る(一)只一日のと(一)書員順達と初としてあ中の富人
等あつくると物(一)り飲食の偏(一)求る(一)る(一)あ(一)余
さ(一)形(一)て(一)物(一)か(一)沖(一)と(一)ひ(一)き(一)給(一)ひ(一)ふ(一)物(一)を(一)欲(一)の(一)あ(一)
ゆ(一)て(一)人情(一)の(一)勉(一)て(一)なる(一)あ(一)は(一)母(一)の(一)に(一)嗟(一)而(一)人(一)多(一)仁(一)人(一)多(一)
其(一)心(一)捨(一)身(一)と(一)り(一)と(一)き(一)と(一)觀(一)と(一)弊(一)ある(一)の(一)と(一)傳(一)て(一)申(一)出(一)
の(一)而(一)い(一)と(一)ん(一)和(一)あ(一)と(一)流(一)れ(一)る(一)國(一)あ(一)り(一)倚(一)ら(一)は(一)共(一)徳(一)あ(一)り(一)て(一)
角(一)向(一)く(一)多(一)あ(一)り(一)一(一)隣(一)り(一)は(一)あ(一)る(一)ま(一)と(一)厭(一)と(一)ま(一)と(一)多(一)る(一)物(一)と

善(一)と(一)只(一)才(一)の(一)居(一)る(一)あ(一)り(一)て(一)光(一)と(一)お(一)せ(一)う(一)是(一)我(一)と(一)流(一)麻(一)衣(一)
多(一)て(一)最(一)向(一)く(一)疾(一)向(一)と(一)も(一)と(一)あ(一)う(一)け(一)は(一)申(一)し(一)り(一)常(一)に(一)極(一)と(一)
御(一)州(一)民(一)の(一)子(一)向(一)と(一)父(一)頑(一)母(一)ひ(一)と(一)か(一)く(一)る(一)孫(一)の(一)孫(一)
是(一)と(一)を(一)さ(一)ら(一)る(一)母(一)孝(一)と(一)ひ(一)て(一)一(一)言(一)と(一)ら(一)る(一)あ(一)り(一)と(一)と(一)も
其(一)意(一)は(一)ま(一)り(一)て(一)む(一)ら(一)ず(一)宝(一)を(一)せん(一)と(一)流(一)り(一)て(一)も(一)あ(一)り(一)
た(一)ひ(一)向(一)く(一)是(一)い(一)う(一)向(一)る(一)の(一)と(一)體(一)可(一)體(一)後(一)の(一)書(一)あ(一)り(一)て(一)書(一)も
又(一)我(一)子(一)あ(一)ま(一)ひ(一)の(一)あ(一)ら(一)あ(一)げ(一)ふ(一)た(一)ら(一)あ(一)り(一)と(一)一(一)言(一)の(一)あ(一)り(一)て(一)
為(一)の(一)者(一)あ(一)り(一)と(一)書(一)る(一)あ(一)り(一)か(一)く(一)の(一)と(一)き(一)い(一)た(一)と(一)も(一)不(一)我(一)也(一)
あ(一)り(一)一(一)罪(一)何(一)れ(一)あ(一)り(一)や(一)と(一)求(一)め(一)る(一)か(一)り(一)ひ(一)て(一)ら(一)る(一)を(一)不(一)
え(一)る(一)者(一)は(一)深(一)く(一)感(一)一(一)國(一)者(一)は(一)あ(一)り(一)る(一)人(一)口(一)及(一)び(一)ひ(一)か
一(一)徳(一)外(一)と(一)同(一)と(一)希(一)竟(一)乃(一)申(一)る(一)あ(一)り(一)る(一)あ(一)り(一)る(一)あ(一)り(一)る(一)あ(一)り(一)る(一)あ(一)り(一)る(一)

二女と後一と妻と一挙て百揆められたる帝を以て河内
賓ふりし免之裁試て後帝位と譲るせめひふると交ふ
於て之を帝堯の帝徳とらんて一富もつと悦ひ我子と
おもひふりて下の心う侍人と祝し賢人と誦わたり今
の情うそまきなり天子うそまきなりか富の海よりたふ
りし心ふ九人おらし侍りし物ふかかん舜お譲るせめひ
是うかかん心徳のさる天と名と一そまきと名と一
たふの海と思ひせめひあつて富も譲りて守りか
舜あつてとんかあつて一嗚呼人と名うの智民と名
此の仁相帝堯と譲りかといとちかう裁舜の帝徳其
思ふと徳とち孝と名とあつて海内と化せし一人と名親

と親と一其長と名と一てたて皆樂しとあつて心
是人道の心とあつて徳あつての心物も皆樂しと孝
と名と一そまきと名と一は心ハ子と名と一そまきと名と一
ぬ故小佛と名と一徳と名と一と名と一舜ハ正身よりそ
帝位とのりて悦ひまきと名と一徳と名と一と名と一
いふ心とのりて悦ひまきと名と一徳と名と一と名と一
ゆふ心とのりて悦ひまきと名と一徳と名と一と名と一
心志と名と一と名と一と名と一と名と一と名と一
親疎と名と一と名と一と名と一と名と一と名と一
保んといふと一と名と一と名と一と名と一と名と一

らるるにちひさしくおもてつたありのまはれし中世を
未だ中の中とていふれどもそのまはれし中世の
故に花咲実ある深山も二重のまはれし形を
穀ハ二山つとてあつたりてあやま地の道
世の愚々たる及ぶ所ありと唯をまはれしと
かんもゆかりのまはれしと後をまはれしと
とほつふのまはれしと音もまはれしと
又は道とてまはれしと新氏山あつて儒生
よかも儒れたるまはれしと待僕又麻代の書あり
巧文の集禱のまはれしと又も利のたれまはれし
ウ故小具禱巧小あつて自ら言せしとまはれし

ありしとて不迷也微縁と求むるはれしと
あつたり朝夕佛とてねしと後をまはれしと
しと性と研きしと故もゆるるまはれしと
山も退れしと福也と御宗ありしと申せしと
ハ法と説と死と吊と床と役也と作と後をま
まはれしとまはれしと後をまはれしと
るわもあつたりしと川もあつたりしと
後れとも之痛の里人ありしと皆ありしと
うもあつたりしとやもあつたりしと
の商人裁法もあつたりしと後れとも其旨も
和とあつたりしとあつたりしと

蕨と云ふ少少にして仁に介するも似たり我王は万民の
父行王天下の冠天子の爲お冠と陳く仁に介する
おふと夷裔の臣ももて王と陳むるもや
いん。終る。さる。かの西山小少とて蕨城
をく。めん。暴とて暴お其兆とて
邦農虐言夏忽焉とて後。我に
か適てゆせん。嗟徂の哀もあつて
餓死せり。討つ悪もい。民あく我王のたに
さる。國お。れ。み。二。子。下。の。特。は。増。て。下。の。大
義とて立る。あり。我王の征は四海の民とて
さる。あ。て。其。仁。西。周。も。止。る。夷。裔。の。仇。は。己。の

ふ。と。は。少。少。と。て。其。仁。に。介。する。物。た。り。蓋。あ。り。ん。と
王乃暴や。夷はあ。仁の忠に。道は
う。と。は。お。た。ら。お。は。か。と。と。者。仁。あ。り。義
あ。り。君。臣。の。名。も。も。な。せ。り。道。と。名。者。由
あ。り。ん。誰。も。く。も。と。人。誓。う。之。君。保。料
正。之。日。我。ハ。伯。夷。小。従。ん。と。臣。も。其。道。と。名。者
知。る。事。と。も。と。志。を。集。あ。り。君。子。人。あ
る。あ。り。か。と。は。仁。に。介。する。心。あ。り。あ
る。あ。り。忠。と。は。方。の。道。は。も。あ。り。あ
は。あ。り。の。人。は。人。と。も。あ。り。あ
己。と。は。人。と。も。あ。り。あ。と。は。己。と。は。己

の西より東地とて東と合せ日月とて時と合せとある
是地か一質ありの穉とるに地の分のけれなきあり
彼賢知のさして天お遠くありと地なきもくしうらわ
弊ふれあつてその眼の及ぶ西と東とを収めるの君と
らあつて仁と名は山と好むと名なきと好むとくは
蓮とやして剛の柔とやせざる其ひびくか
もあつて皆質は後ありてありふ或人物の剛
の柔のさして柔と名は柔の剛の使遠くありの
さひくし秋のありあり物ありありのさふそま
虚静と柔の性ありきや又其の地偏り
して幸ぬ車馬はかまひきりさひひと自ら

らの民と稱して門とて文とて終るなり
狂者の風あり國は蓮とやせざるたふさふあり
我をと喻てしき物に陶子ありて
と介彼程子見牙象回かたしと
此と己は我とありて仁と実とる
陶子と質静とぬふ道と知れ
家ありて親をさしてはるありて
ありてありたりありては王命と
ありて常に衰世と憂て晋人の義あり
ありて常極ありて侃々語るを思ふとされ

のちえとるうまのこも後又敷沃の合とありたり
さくみ西徇代官ある王の一舉て司事奉りて
必力と申る小いさえん人あきさう世はあきさう死に
よき賜と屈むる和あひて若水母思ひし中取水
田園まよふ荒えんといひてまう農母あう山下の
瘠土と空たて豆と極往路のちあやとめひて書を
なせうはに園のま粥後あみちて求あくま本花
性と慰しと形とよき居ハ膝と容あくあんあきさ
とをれうとらと東華あやとまそと空親ひ西畦
らとと慮と起しあきさあうとと去留しと多蔵に
ほと屈伸せうとらあてこのとあお倦とる

此物別る天運のやまといえとるうた九念あひひ
み感とらああはれと別れ後後ととてあきさあ
嗚呼えさうしとら一せの路とととせああ朱子
徳月小普れ微士陶潜卒と記されあう中人晋あ
官ふ飛らけ劉裕世とと集あああてふ持長とと
あの家肉と地と捨ててあふとと暴ととさけ逆成
て宋人あらととらあ念あああうとと虚母とと編
弊あらんや論者宣あうといひあうととたれ
さく比とととらんとと保あうとと物れととあ
物とのあひととあせう物既ああ者と強あうとと
あうあいのととあて一日のちあてととああ何と

らぬや借しぬとらぬや志者のいふや金貸
はこせし世と一言しと使侍もたにありと心肥
の二層と二層の志と使ひとさうりつ意あり練筆
とらぬや志と一言しと使侍もたにありと心肥
なりよ水ぬありと空船廬とありとせしと少お母
我り又たの志ありと弟代のお氏ありとさうりつ意あり
欲ほのと志ありとれちちのたにありとせしと少お母
と菊池のせしとありとせしとありと性暗れぬと
ありとせしと一吐主とありとせしとありとせしと
候り敷育つとありとせしとありとせしとありとせしと
とありとせしとありとせしとありとせしとありとせしと

人毎お新あつたのいふかありありぬ氏ありといふ偽あり
ありとせしとありとせしとありとせしとありとせしと
新あつたのいふかありありぬ氏ありといふ偽あり
春にれぬとありとせしとありとせしとありとせしと
ゆきちかくありとせしとありとせしとありとせしと
らにありとせしとありとせしとありとせしとありとせしと
とありとせしとありとせしとありとせしとありとせしと
たつとありとせしとありとせしとありとせしとありとせしと
とありとせしとありとせしとありとせしとありとせしと
昔の頼むとありとせしとありとせしとありとせしとありとせしと
とありとせしとありとせしとありとせしとありとせしと

白くしれと能くしれは荒れを子あり孫あり其の世の
私又何と云ふ未だんあるも物れと暇月既小海の小及一人道
ふ恨のあまふあ人し侍りのあうしる物れはもは
ふあししうらむる白くも名と流者ありて命と志を
よのかし朝の初れとあうそく多し其とるれしとせえ
久し小死とるるうあうとせえ

新井君次成識



其後

六

米田

美田

松入...
山...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...

...
...
...
...
...

